

**製品名: CysLTR2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09686**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	35kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CYSLTR2
別名	CYSLTR2; CYSLT2; CYSLT2R; PSEC0146; Cysteinyl leukotriene receptor 2; CysLTR2; G-protein coupled receptor GPCR21; hGPCR21; G-protein coupled receptor HG57; HPN321
遺伝子 ID	57105.0
SwissProt ID	Q9NS75
免疫原	抗血清はヒト CLTR2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 281-330

**背景**

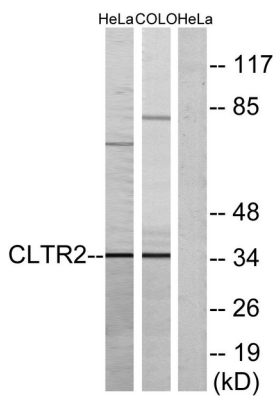
システイニルロイコトリエン LTC<sub>4</sub>、LTD<sub>4</sub>、および LTE<sub>4</sub> は、ヒト気管支喘息の重要なメディエーターです。薬理学的研究により、シ

ステイニルロイコトリエンは少なくとも2つの受容体、すなわちこの遺伝子によってコードされるタンパク質と CYSLTR1 を活性化することが明らかになっています。このコードされる受容体は、G タンパク質共役受容体スーパーファミリーのメンバーです。内分泌系および心血管系において重要な役割を果たしていると考えられます。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能: システイニルロイコトリエン受容体。この反応は、ホスファチジルイノシトール-カルシウムセカンドメッセンジャーシステムを活性化する G タンパク質を介して媒介されます。部分作動薬である BAY u9773 による刺激は、肺静脈の特異的収縮を誘発し、肺血管内皮の弛緩にも間接的な役割を果たす可能性があります。ロイコトリエンに対する親和性の順位は、LTC4 = LTD4 >> LTE4 です。類似性: G タンパク質共役受容体1ファミリーに属します。組織特異性: 広く発現しており、心臓、胎盤、脾臓、末梢白血球、副腎で最も高いレベルで発現しています。肺では、間質マクロファージに発現し、平滑筋細胞にもわずかに発現しています。、

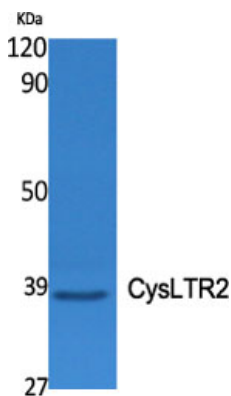
## 研究分野

カルシウム;神経活性リガンド-受容体相互作用;

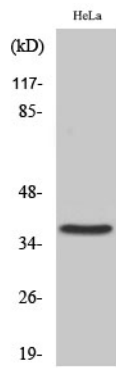
## 画像データ



CLTR2 抗体を用いた HeLa 細胞および COLO 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



CysLTR2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



CysLTR2 ポリクローナル抗体を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット解析